

(別紙様式 = 小学校用)

学校の概要 (平成15年4月末日現在)

都道府県番号	3
都道府県名	岩手

学校名	一関市立南小学校									
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	4	3	3	3	3	2	21		
児童数	117	125	108	98	99	113	6	666	33	

研究の概要

1. 研究主題

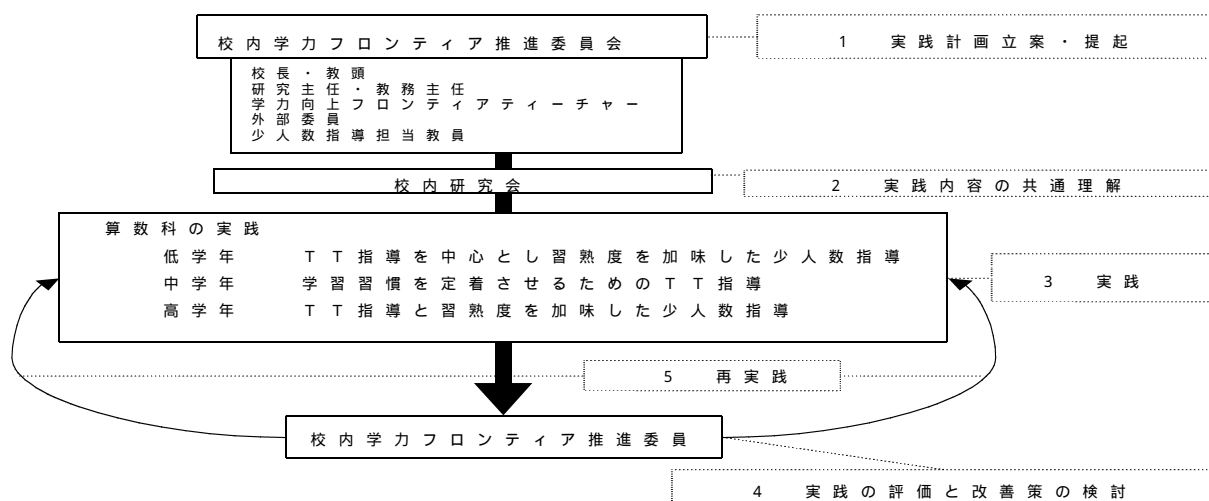
算数科における個に応じた指導 ~ T T 指導を中心に ~

2. 研究主題設定の趣旨

本校では、T T による算数指導の実践経験があり、その研究成果をさらに児童の基礎・基本の定着のために深めるためこの主題を設定し、個に応じた指導を工夫・実践していこうと考えた。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

平成15年度	<p>テーマ 研究の見通し</p> <p>研究の内容・方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導体系を探る。</li> <li>低学年を中心に個に応じた指導体系を工夫し実践する。</li> <li>効果的な指導体系を確立する。</li> <li>T T 指導を中心として、さらに個に応じた指導を深めるための少人数指導の在り方を、低学年を中心に探っていく。単元末ワークシートやC R Tを中心にその効果を評価し、さらに工夫を重ねる。</li> </ul>
平成16年度	<p>テーマ 研究の見通し</p> <p>研究の内容・方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導体系を確立する。</li> <li>算数科の学習において、次のような手立てを講ずれば、確かな学力を付けることができるであろう。 基礎・基本を明確にし、学習指導過程を明確にする。 T T ・少人数指導など個に応じた指導の工夫をする。</li> <li>T T 指導を中心として、さらに個に応じた指導を深めるための少人数指導の在り方を、各学年の発達段階・児童の実態・単元の特性等に配慮しながらまとめ、実践し、全校の指導体系を確立する。</li> </ul>

(3) 研究の成果と課題

研究の成果

ア 個に応じた指導形態を工夫し実践

- ・ 基礎的な学習習慣を定着させるためのTT指導、習熟の程度を加味した少人数指導等の個に応じた指導形態を工夫し実践することができた。
- ・ 中・高学年では、TT指導を中心に授業を展開。昨年度まで築き上げてきた指導形態をさらに充実させることができた。
- ・ 低学年（第2学年）では、授業の前半をTT指導、後半を習熟の程度を加味した少人数指導で展開。児童の学習意欲と実態に応じたきめ細かな指導を実践することができた。
- ・ 同少人数指導を、高学年で単元を抽出して実践することができた。

### 算数科（第2学年）における基本的な授業の流れ

課題把握	見通し・自力解決	練り合い	まとめ1		適用	まとめ2
一斉指導（TT指導）25分					少人数指導（グループ別）20分	

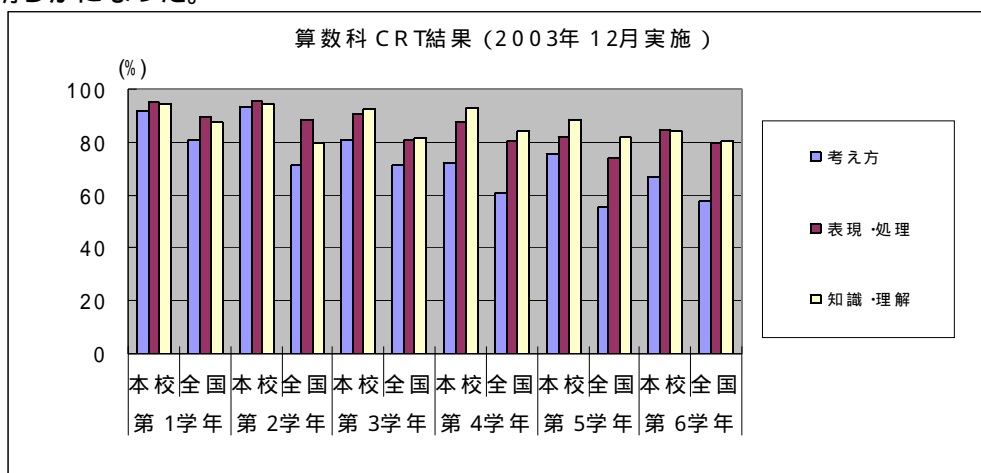
「見通し・自力解決」の段階では、個人でタイル等の半具体物を活用したり既習の計算方法で答を考えたりする。「練り合い」の段階では、ペア学習（臨席の友達との答合わせや説明のしあい）・グループ学習（4～5人での合同作業や教え合い）・視聴覚機器を活用しての一斉学習等を行う。そして、「まとめ1」の段階で一定の課題の解決を確かめ合う。

「適用」の段階から、希望によって「自信があるからどんどん問題を解きたいコース」と「じっくりゆっくり先生と一緒に解いていくコース」に分かれての学習である。課題解決までの学習の流れを復習し、練習問題に取り組む。少人数指導では、「まとめ1」でまだしっかり理解できなかった児童を個別に指導していく。さらに、理解が速い児童もたっぴりと練習問題や応用問題に取り組むことができる。

- ・ 習熟の程度を加味した少人数指導は、「自信があるから自分でどんどんプリントを進めるコース」と「もう一度じっくり先生と一緒に学習を進めるコース」を児童に選択させて、オープンスペースを活用し2グループに分かれての授業を展開した。その際、「みんなで合意してから2つのコースに分かれる」「自分でコースを選択する」「いつでもコースを変えられる」「他人に迷惑をかけない」の4点を児童と約束し、差別的な雰囲気を生み出さずより積極的に児童が学習に取り組めるよう配慮した。
- ・ 少人数指導で使用する学習プリントは、その時間で学んだ内容を一通り再確認できる流れで作成し、合わせて繰り返し練習できるドリル的な問題、前時までの復習問題、応用力が試される発展的問題等を盛り込んだ。さらに、より多くの学習に挑戦したがる児童のために、様々な単元の発展問題に自由に挑戦できるコーナーを別に設け、45分授業の最後まで意欲的に学習に取り組めるよう工夫した。

### イ 基礎学力の定着

- ・ 前述の指導形態で授業を続けた結果、基礎学力の向上が県学習定着度状況調査やCRT等において明らかになった。



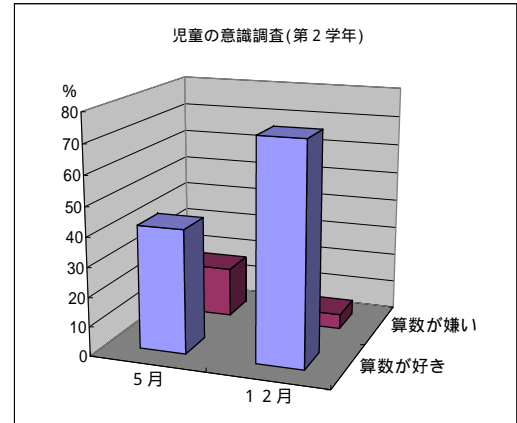
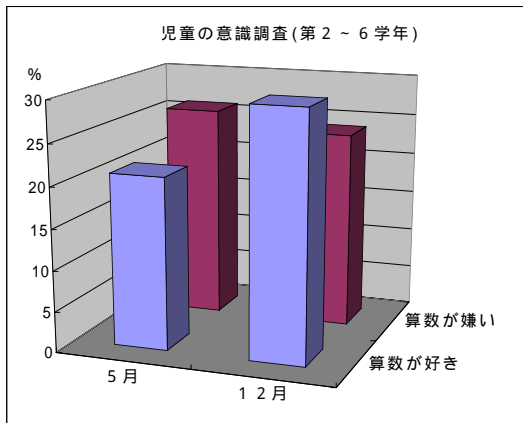
- ・ 1単位時間の授業の流れがまとまり、教師も児童も次に取り組むべき事がはっきりしてより積極的に学習に取り組むことができるようになった。合わせて学習の効率化が図られ、個々の

(別紙様式 = 小学校用)

活動のスピードも向上した。その結果、個別の補充指導・繰り返しドリル・発展学習等の個に応じた学習を進めることができるようになった。これらの積み重ねが前述のデータとして現れたものと考えられる。

ウ 学習意欲の向上

- ・ 6月と12月に児童の意識調査を実施。「好きな教科」と「きれいな教科」をそれぞれ3つずつ理由のコメントをつけながら児童全員(第2学年以上)に無記名で答えてもらった。
- ・ 「算数が好き」と答える児童が増加し、「算数が嫌い」と答える児童が減少した。特に、習熟の程度を加味した少人数指導に取り組んだ2学年では、その傾向が顕著に現れた。



今後の課題

- ・ 今年度低学年で実践した習熟の程度を加味した少人数指導を、今後全学年にわたって実践し、より個に応じた指導を展開していきたい。
- ・ 意識調査において「算数が嫌い」と答えた児童の気持ちを探り、より意欲的に学習に取り組めるようになるための効果的な指導の在り方をさらに工夫していきたい。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・ 地域のフロンティアスクール間で合同の研究会をもちながら、お互いの成果を交流していくとともに、授業を積極的に参観し合う。
- ・ 一日授業参観を設け、算数科の授業を中心に実践的な取組を地域に公開する。
- ・ 校報や学年通信にて、授業の取組方針や状況を知らせる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェック (複数チェック可)

- 【新規校・継続】  15年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】      6学級以下      7 12学級  
                         13 18学級       19 24学級  
                         25学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T Tによる指導  
                         一部教科担任制      その他
- 【研究教科】      国語      社会       算数      理科  
                         生活      音楽      図画工作      家庭  
                         体育      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有      無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

発達段階や児童の実態に応じた効果的な指導法の工夫

- ・ 低学年では、T T指導と習熟の程度を加味した少人数指導を組み合わせる指導している。発展的な学習の充実
- ・ 単位時間で使用する学習プリントを複数準備し、発展問題にチャレンジできるコーナーを設けている。